太郎・次郎

石岡市立東成井小学校
学校だより　２８号
令和５年１２月　１日
校長　　石﨑　重臣

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

太郎、次郎を見つめて…！

今日から１２月です。今年も残すところ、あと３０日になりました。朝夕はめっきり冷え込み、吐く息が白くなり始めましたが、なるいっこたちは変わらず元気に登校しています。私は正門でなるいっこたちを迎えながら、イチョウの葉の掃き掃除をするのが日課となりました。校庭の「太郎・次郎」の木は鮮やかに色づいて、透き通った青空とのコントラストがとても美しいです。

「太郎・次郎」の木を見つめながら、私は「なぜ、このイチョウの木が東成井小のシンボルになったのだろう」と思いました。そこで、イチョウの木についていろいろ調べてみたら次のようなことが分かりました。

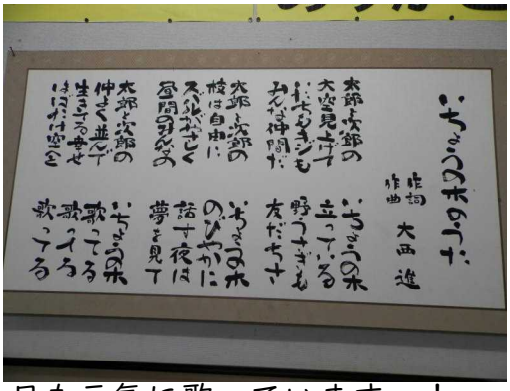
・ダーウィンは、イチョウを「生きた化石」と呼んでいました。 地球上で植物が繁茂したのがジュラ紀（約1億5千万年前）で、そのころの植物でイチョウだけが現存し、ほかの植物はすべて化石となっているからです。

・イチョウ(銀杏)の花言葉は「荘厳」「長寿」。

・イチョウは水分を豊富に含んでいて、燃えにくい樹木として知られています。紅葉、落葉し完全に乾いているように見えていても燃やそうとすると白い煙を発生させます。多くの寺社仏閣や街路樹にイチョウがあるのは、燃えにくい樹木を植えることで、建物の火災を発生させない願いがかけられているのだとか。

・与謝野晶子の短歌にこのような歌があります。
金色の　ちひさき鳥の　かたちして　銀杏ちるなり　夕日の丘に

イチョウの木がもっている特性に加えて、「繁栄のシンボル」として東成井小学校の子どもたちや地域の方々の健康と今後の力強い発展を願う、縁起のよい木であることが分かり、私はとても感動いたしました。



そして「背中を見て学ぶ」という言葉を思い出しました。あれこれ手ほどきを受けて「教わる」ことも大事ですが、家族や働く大人たちの姿を見て「学ぶ」ことも、子どもたちにとって大切であることを再認識した気がします。「太郎・次郎」の木の姿が見せてくれるように、「人の姿を見て子どもは育つ」、このことをしっかり肝に銘じて、令和５年を締めくくれるように、私自身も精進してまいります。

なるいっこたちは「いちょうの木のうた」を、今日も元気に歌っています…！